

「ことば」という視点

---英語教育に決定的に欠けているもの---

大津由紀雄

明海大学

英語教育の在り方に関する有識者会議(第3回)

文部科学省

2014年4月23日

英語教育に関するわたくしの危機感

- TOEIC、TOEFLのスコアが高くて、英語が使える人が非常に少ない。
- 日本語がきちんと使える人が非常に少ない。
- 同根現象
- ことばの教育としての母語教育（国語教育）と外国語教育（英語教育）の在り方に問題がある。

英語学特講を取らなければいけないことは
まだ知らなかったので取らずに授業を
組んでしまっていて授業終わったら
教習所を入れようと思っていたので
教習所に6月分までスケジュールを組んで
もらって金曜日は毎週入っています。
教習所なのでキャンセルをすると
キャンセル料がかかってしまうので授業を
取るのは難しいです。

原因

- 「ことば」という観点の
決定的欠落
- 母語と外国語を
関連づけられない

「ことば」

- language
- a language
- **the** language, languages
- 日本語、英語、スワヒリ語、日本手話、...
- 個別言語
- すべての個別言語を支える共通の基盤
- 個別性と普遍性

すべての個別言語を支える共通の基盤

- 母音と子音
- その組み合わせ
- bat
- think
- strong
- ビール、ビル

すべての個別言語を支える共通の基盤

➤ 語のまとまり(句、文)と その並べ方(語順)

✓ [ことばの**本**]

[**books** on language]

✓ [本を**読む**] [**read** books]

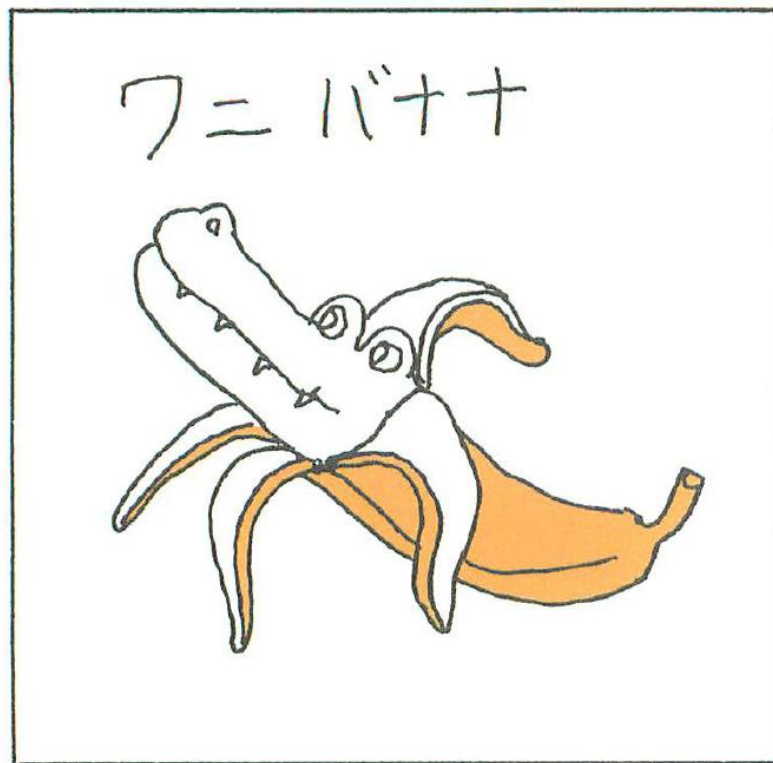
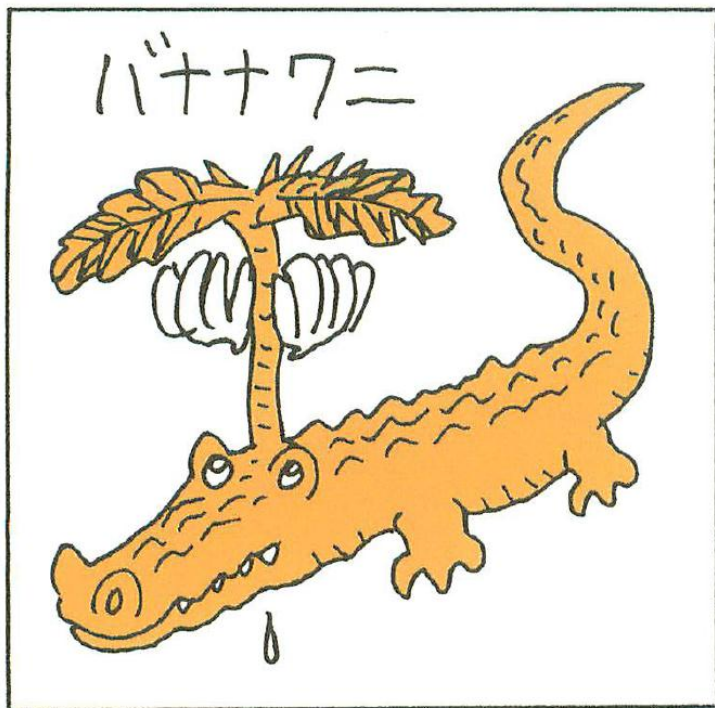
✓ [太郎が犬を追いかけている]
[Taro is chasing a dog]

言語教育の在り方

- 小学校段階で母語を利用して、ことばの性質（仕組みや働き）に気づかせる。
（「**ことばへの気づき**」）
- 外国語の利用があってもよいが、英語という特定の言語に偏ることがないように配慮が必要である。
- ことばへの気づきを利用して、外国語教育を進める。
- 豊かな、ことばへの気づきは**母語と外国語の効果的な運用**を可能にする。

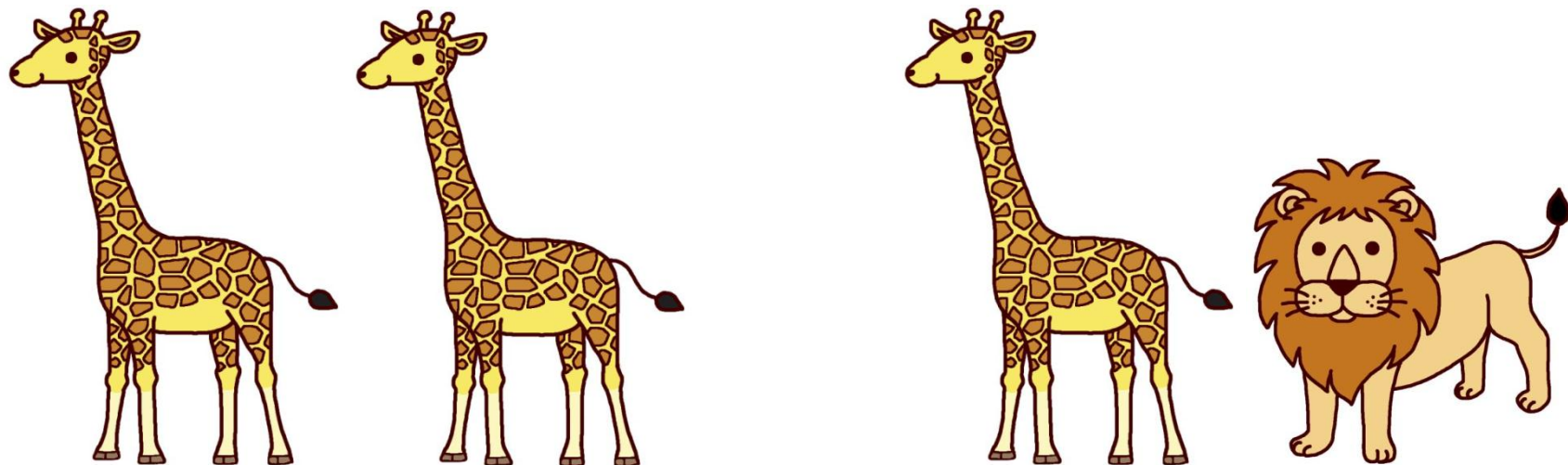
外国語学習の前提となるのは

- 母語でのことばへの
気づき
- 直感 (intuition)
- 「あゝ〜」体験
- 楽しい体験



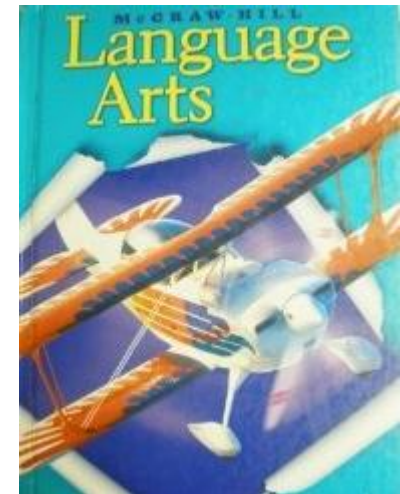
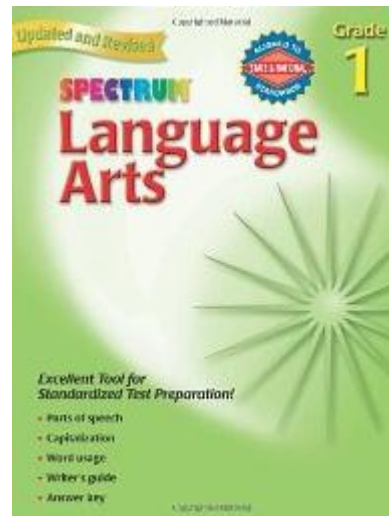
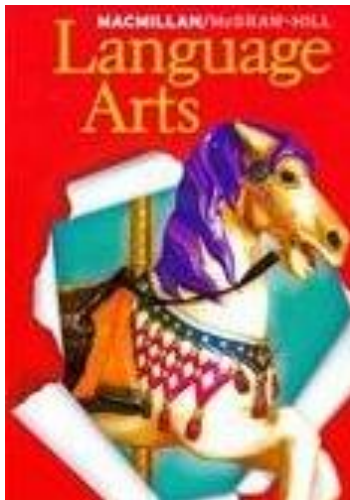
絵：早乙女民

キリンさんたちが動物園から
逃げ出しました。



諸外国でも、

➤ Language Arts



現状

堅固な基礎が形成されないまま、高等学校、大学での英語教育が施される。すでに大学での英語教育はかなりの程度、就職率を少しでも上げるためのTOEIC 対策講座化に堕している。

現状

TOEIC での高スコアは必ずしも英語の熟達度を示すものではなく、高スコア獲得者を採用した企業はこんなはずではなかったと絶望感が広がる。結局のところ、学校英語教育の外での努力を惜しまなかった少数の卒業生だけが英語を使いこなせるという状況が生じる。

母語という礎なしの

- 外国語運用能力は
ただペラペラだけの
ハリボテ英語力に
過ぎない

「ことばへの気づき」と英語力

- 相関関係がある (Nagai 2011)
- 因果関係がある (Fujita 2013)
- 動機づけが2つを繋ぐ (Igarashi 2014)
- 「気づき」と母語の作文力に相関関係がある (Kodama 2014)

小学校における

- 外国語活動を**ことば活動**にする
- 母語も、外国語も対象とする
- 英語は外国語の1つ
- 学級担任も、児童も、母語に対する直感を使ってことばのおもしろさ、奥深さ、怖さを実感することができる。
- 外国語学習へのごしらせ

どうしても教科化をするというなら

- 中学校の前倒しではだめ
- 「**外国語科**」であることを真剣に受け止め、英語だけでなく、広く世界の言語を見据えた内容にすべきである
- **母語も排除しない**という姿勢が不可欠
- 災い転じて福となす

「ことば」という視点を導入することによって、

- 国語科との連携が可能となる
- 母語の効果的運用のための力を育成できる
- 外国語の効果的運用に必要な外国語知識を身につけるための基盤が形成できる。

ご清聴

ありがとう

ございました

oyukio@sfc.keio.ac.jp

oyukio@meikai.ac.jp